

ぱちんこ 言葉物語

40



業界初の公募デザイン採用
パチスロ「カンフルディー」。
BIG図柄としては
胴体の部分が相当する。
©yamasa

チーパオ

今回の言葉物語は「チーパオ」という言葉に焦点を当ててみたいと思います。オリジナル機開発時代の中で業界に衝撃を与えた初の試みとその後の業界の動きを見てみたいと思います。

業界初の大胆な試み

チーパオとは中国語で「七好」と書く架空の女の子という設定で、パチスロメーカー山佐が2000年に登場させたパチスロ機のメインキャラクターです。しかし只のキャラクター紹介で言葉物語に登場するはずがありません。このキャラクターデザインの凄いとこのは、公募デザインで集められたものを基本そのままデザインに採用した点にあります。

を基本そのままデザインに採用した点にあります。

当時の山佐の登場機種に一貫して言える点としては「出目至上主義」、即ちパチスロの面白さは停止した出目が作るというイメージをユーザーに感じさせる極上のパチスロ機ばかりでした。

その中でデザインコンテストにて入賞したデザインの中からこのチーパオを採用した「カンフルディー」と、基本デザインコンセプトを採用した「アラベスクR」は、それまでの開発思想にまた新しい発想を盛り込んだ機械となりました。

分かり易さがファン獲得

この当時、山佐では初物の機種が多く賑わいを見せており、完全告知機「ピカ吾郎」や準大量獲得機「花月」、技術介入機「イブシロンR」などそれぞれ

の方向性に向けた機種をリリースしました。その中で登場した同機は、ボーナスのみで出玉を増や

す純Aタイプを採用、左リールに3連図柄チーパオ停止でボーナス確定、他のリールで1つ停止すればチャンス目、2つ停止すればボーナス確定と比較的分かり易いリール制御を採用しました。機械割も比較的辛い方ではない一方、ボーナス中の出玉を増やすリプレイ外しでは3連図柄をいずれかのリールでピタリと狙う必要があり、難易度はやや高かったのを覚えています。

当時の技術介入時代の中では「出目がつまらない」という意見は確かにありましたが、分かり易い制御は幅広い年齢層の獲得につながり、結果としては中道主義と言える味付けと言えるのでしょうか。そして、その数か月後、もう一つのデザイン採用機「アラベスクR」が登場します。これは第4リール「テトラリール」をフルに活用した極上リール目機に私も熱狂することになったのですが、それはまたの機会にお話ししたいと思います。

絶えず愛着高める工夫

チーパオはその後2機種が登場し、山佐のメインキャラクターの一人として定着しました。その後コンテストも継続して開催さ



もう一つのデザイン採用機「アラベスク」。
若干のアレンジは行ったものの
コンセプトはそのまま登場し、
基礎デザインレベルの
高さがわかる。©yamasa

れ、また面白い取り組みではリール目に名前を付けるコンテストなども開催したことなど、ユーザーへの愛着を高める工夫を絶えず行っています。

メーカーとしては直接売上の要素ではないのかもしれませんが、開発企業の愛着を感じる機種というものは結果として企業も長く愛される事になるでしょう。是非頑張っていたきたいです。

さて昨今では純Aタイプの登場も多くなってきました。業界内では昨今の規制に批判的な意見も多いと聞きますが、ホールが望みメーカーが応えた結果が現在の姿であるという謙虚な認識を持たなければなりません。高い機械を購入するわけですから、たつぷりユーザーに愛してもらい、止む無く撤去（引退）の時は遊技機に感謝する、そんな一連のライフサイクルをもう一度心から考えなければなりません。

(大和田敏男)

公募デザイン「女の子」